

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立飛騨高山高等学校

学校番号 5813

I 自己評価

(通信制課程)

1 学校教育目標	1 「快活」「友愛」「創造」を校訓とし、心身ともに健やかで、より豊かな人間性と「生きる力」を備えた生徒の育成を目指す。 2 社会への貢献や地域の発展に寄与できる人材育成を目指し、社会人としての一般教養を身につけさせるとともに、創造性にあふれ、明朗快活で心豊かな人間性を養う。	
2 評価する領域・分野	◇生徒指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	生徒のスクールライフアンケートからは、いじめや迷惑行為は報告されていない。また、いじめ防止や基本的モラルやマナーの指導に関する肯定的な評価は生徒・保護者共に85%以上である。「すぐメール」等による情報発信については、90%以上の肯定的評価がされていることからコロナによる休校等の状況下に求められる対応に合致していたと分析している。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇安全・安心な環境づくりを進め、個に寄り添い、自己肯定感を高めるように努める。 ◇自他の人格と生命を尊重し、健全な人間関係を築くとともに、社会性の育成に努める。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	分掌の主担当者を中心として、全職員が共通理解の上取り組む。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 生徒実態の正確な把握のため各種アンケートを実施・分析するとともに、懇談を随時実施し、本人からの聞き取り体制とともに保護者との連携を強化する。 (2) 生徒の主体性の伸長を図るため、学校行事・部活動・生徒会活動の各活動で計画的・意図的な指導支援を行う。 (3) 生徒実態の多面的理解のために校内の協働体制を整備し、外部機関との連携を強化する。	(1) スクールライフアンケート・生徒及び保護者を対象とするアンケートの結果分析および懇談での聞き取り内容の分析 (2) 学校行事・生徒会活動の参加率 部活動加入者数及び活動状況・大会成績 活動状況の観察 (3) スクールカウンセラーからの聞き取りと情報分析 生徒の様子観察と懇談等での聞き取り	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・中学校訪問や前籍校からの聞き取りにより、生徒実態をできる限り早期に把握し、学校適応のための支援を行った。 ・社会的経験の少ない生徒実態に沿った基本的モラルや生活に必要なとされる知識や姿勢についての具体的指導を行った。 ・スクールカウンセラー等の外部機関と積極的に連携し、生徒を多面的に支援した。	① スクーリング参加率やレポート提出率の維持等、通信制の学習活動に適應しているか。 ② 生徒実態や課題に沿った指導・支援がなされているか。 ③ 学校組織マネジメントを機能させ、組織的な対応がなされているか。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果課題	○今年度のスクーリング出席率全体平均は80%を超えレポート提出率も非常に高い。早期の適応指導もその一助となったと考えられる。 ○最新かつ専門的な知見を生徒指導に役立てるため、コロナ禍における生徒の心理状況とその対応についての職員研修会を実施した。 ○生徒実態の多面的な把握のため、スクールカウンセラーとの連携を強化した。 ▲多様な生徒への対応するための職員間の情報交換・共通理解をより強化し、生徒が安心して生活できる環境を整備する必要がある。 ▲コロナウイルス感染症拡大のため、ほとんどの行事を中止せざるを得なかった。	
12 来年度に向けての改善方策案 ・生徒実態の変化を把握するためのアンケート項目の検討と改善 ・生徒情報交換が日常的にできる体制と意識の強化 ・コロナ化における学校行事ののぞましい在り方についての研究と検討		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年1月

【意見・要望・評価等】

子どもたちの心身の安全を最優先に指導していると感じている。学校での様子が気になったときなどすぐに連絡をもらえたり、休校などの情報をすぐメールでこまめに配信してもらえるのは安心できる。

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立飛騨高山高等学校
(通信制課程)

学校番号 5813

I 自己評価

1 学校教育目標	1 「快活」「友愛」「創造」を校訓とし、心身ともに健やかで、より豊かな人間性と「生きる力」を備えた生徒の育成を目指す。 2 社会への貢献や地域の発展に寄与できる人材育成を目指し、社会人としての一般教養を身につけさせるとともに、創造性にあふれ、明朗快活で心豊かな人間性を養う。	
2 評価する領域・分野	◇進路指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	進路情報提供・進路指導については、生徒・保護者共に80%以上の高い肯定的評価を受けている。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇望ましい勤労観・職業観を形成させて、社会的自立を促進する。 ◇主体的な進路設計ができるように指導し、卒業後の進路実現を目指す。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・分掌の主担当者を中心として、全職員が共通理解の上取り組む。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 外部講師による進路講話を実施して、生徒及び保護者の進路意識を高める。 (2) 面接指導(スクーリング)及び個別面談等を通して、自己の能力・適性や可能性に気付かせるとともに、適時に進路情報を提供する。 (3) 随時、進路相談を行って就労の実態や進路希望を把握し、学力補充・面接指導など、卒業後の進路を見据えた指導を個に応じて実施する。	(1) 生徒及び保護者を対象とするアンケート就業調査 (2) 進路希望調査 (3) 進路先決定状況	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・就業調査及び進路希望調査を実施して実態把握に努めた。 ・進路説明会、個別の学力補充、小論文指導、面接指導を実施した。 ・外部講師による生徒対象の進路ガイダンスを実施した。	①生徒の実態把握と情報提供は、十分にできたか。 ②個々の進路希望に応じた適切な支援ができたか。 ③進路関係についての認識が深まったか。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題	○卒業予定者を対象に、全職員で連携して情報提供、具体的な学習指導、面接練習、志望理由書、履歴書等の添削指導と個別面談を繰り返し実施した。就職希望者についてハローワークとも連携して指導・支援した。 ○指導が必要な時期がバラバラであるため、全職員による指導体制を構築、運用した。 ○外部講師による講話を実施し、生徒、職員ともに有益な情報を得ることができたと好評であった。 ▲自己肯定感が低く、卒業後の進路に関して「新たな一歩」を踏み出すことが難しい生徒が多い。具体的な進路目標の設定、能動的な進路決定、そして進路実現ができるように、適切な指導や方法の工夫が課題である。	
12 来年度に向けての改善方策 ・自己肯定感の低い生徒や、多様な生育状況・家庭環境を持った生徒の進路実現に向けて、最善の支援が行えるように、全職員の共通理解によって個々の生徒の状況や日頃の様子に注意を払う。また、関係機関とも連携して、最新の情報提供に努める。		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年1月

【意見・要望・評価等】
 社会経験が少ない子どもが多いことを踏まえて、講演会などを適切に実施してもらっている。必要な情報が必要なときに教えてもらえる。

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立飛騨高山高等学校

学校番号 5813

(通信制課程)

I 自己評価

1 学校教育目標	1 「快活」「友愛」「創造」を校訓とし、心身ともに健やかで、より豊かな人間性と「生きる力」を備えた生徒の育成を目指す。 2 社会への貢献や地域の発展に寄与できる人材育成を目指し、社会人としての一般教養を身につけさせるとともに、創造性にあふれ、明朗快活で心豊かな人間性を養う。	
2 評価する領域・分野	◇学習指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	今年度実施した保護者や生徒による学校評価、生徒による授業評価では、98%の生徒が肯定的な評価をしており、前年比5%上昇した昨年度より、更に良くなっている。保護者からの回答では、本校通信制の存在は100%肯定されており、全体指導・個別指導いずれについても肯定的に評価されている。授業の教え方・レポート添削指導・学習指導等について90%以上の生徒が肯定的に評価し、本校に入学できてよかったと回答している。通信制の学習指導全般に関して、保護者、生徒から高く評価されていると考えられる。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇基礎的・基本的な学力と一般教養を身につけさせる。 ◇自ら学ぶ意欲や態度が育つように個に応じた支援をする。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	分掌の主担当者を中心として、全職員が共通理解の上取り組む。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 出題内容の見直しと改善を不断に行い、取り組みやすいレポートの研究を進める。 (2) 一斉スクーリング、個別スクーリングを併用して個々の生徒の実態に即した柔軟な指導を行えるよう、指導計画の修正と情報共有を積極的に行う。 (3) 協働する意義やソーシャル・スキルについて学ぶ機会を計画的に設定する。	(1) 生徒および保護者を対象とするアンケート結果の分析(レポート・テスト等の関連項目) (2) 生徒による授業評価アンケート結果と分析(学習状況・スクーリング等の関連項目) (3) ソーシャル・スキルレポート及び各種行事後のアンケート分析・スクーリング時の観察	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> 各教科でレポートの内容の工夫改善、添削における評価基準について見直しを行った。 学力不足や精神的ケアが必要な生徒に対して効果的な指導を行えるよう情報共有と統一的指導を行った。 ソーシャル・スキルのレポートを回覧するなど生徒実態の共通理解を進めるとともに、必要な支援の内容についての意見交換を実施した。 	① 分析結果がレポート・スクーリングの改善に反映しているか。 ② 生徒の実態に合った指導支援がなされているか。 ③ 学校組織マネジメントを機能させ、組織的な対応がなされているか。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題	○生徒個々に対応した支援ができるよう、情報・意見交換を密にして統一的に指導していることがスクーリング出席率と単位修得率の向上につながっている。 ○スクーリング時の観察やレポートの記述状況の分析により把握した生徒の課題を職員が共通理解し、教育相談や懇談・支援計画の情報等合わせて多面的に把握することにより、早期の対応が実施できている。 ▲生徒実態の多様化が進み、特別支援的アプローチや医療的対応が求められるケースが増加しており、関係機関との連携の強化や新たな連携先の確保が必要である。	
12 来年度に向けての改善方策案 <ul style="list-style-type: none"> レポート内容やスクーリングの質問・発問をわかりやすいものから高度なものまで重層化する工夫 生徒情報交換が日常的にできる体制と意識の強化 生徒に必要とされるソーシャル・スキルの分析と検討及び焦点化 		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年1月

【意見・要望・評価等】

レポートの添削による指導だけでなく、個別に対面指導を行うなど丁寧な指導がされている。一人一人のペースに合わせて学習できる通信制の長所が生かされていると思う。